

IX. ワクチン

(1) ワクチンプログラム

大阪大学医学部附属病院では職業感染防止のために、職員に対して抗体価測定と下記ワクチン接種を実施している。

- ① B型肝炎ワクチン（新規採用職員、全職員）
- ② 麻疹、風疹、水痘、ムンプス（新規採用職員）
- ③ インフルエンザ（全職員）
- ④ 新型コロナワクチン

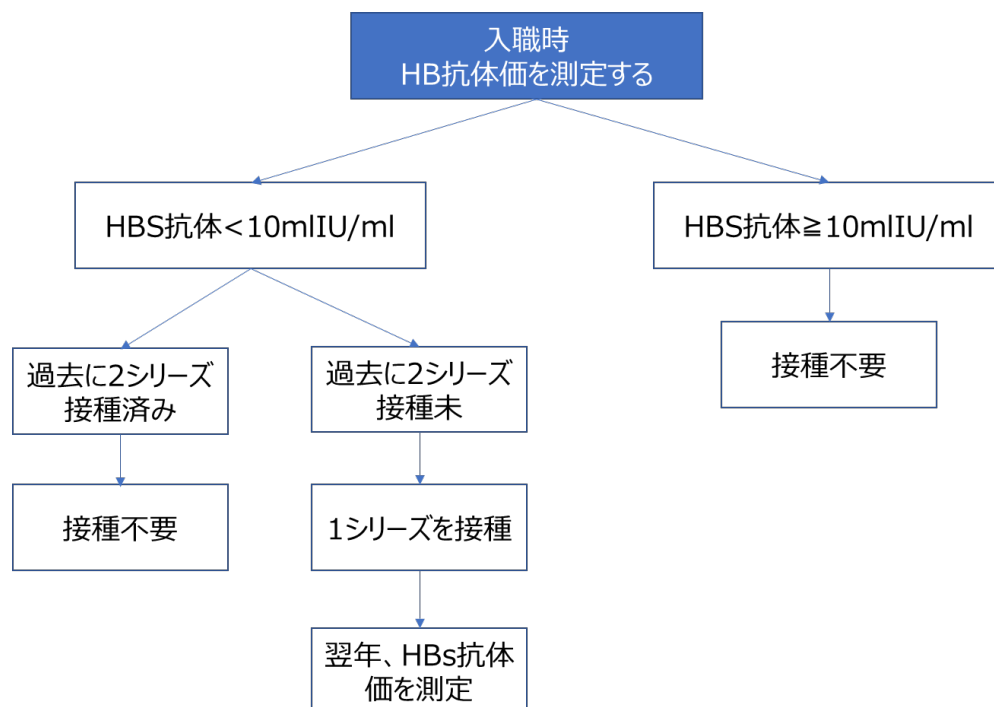
1) B型肝炎ワクチン接種について

対象者：下記フローに基づき対象者を選定

抗体価測定：新規採用職員…4月、採用時

接種時期：関連部署と協議の上決定し、通知

接種方法：感染制御部にて接種



2) 麻疹、風疹、水痘、ムンプスワクチン接種について

日本環境感染学会ワクチンガイドライン第3版に準じて、ワクチン接種回数を基本に抗体価結果も反映した接種フローに基づき運用している。

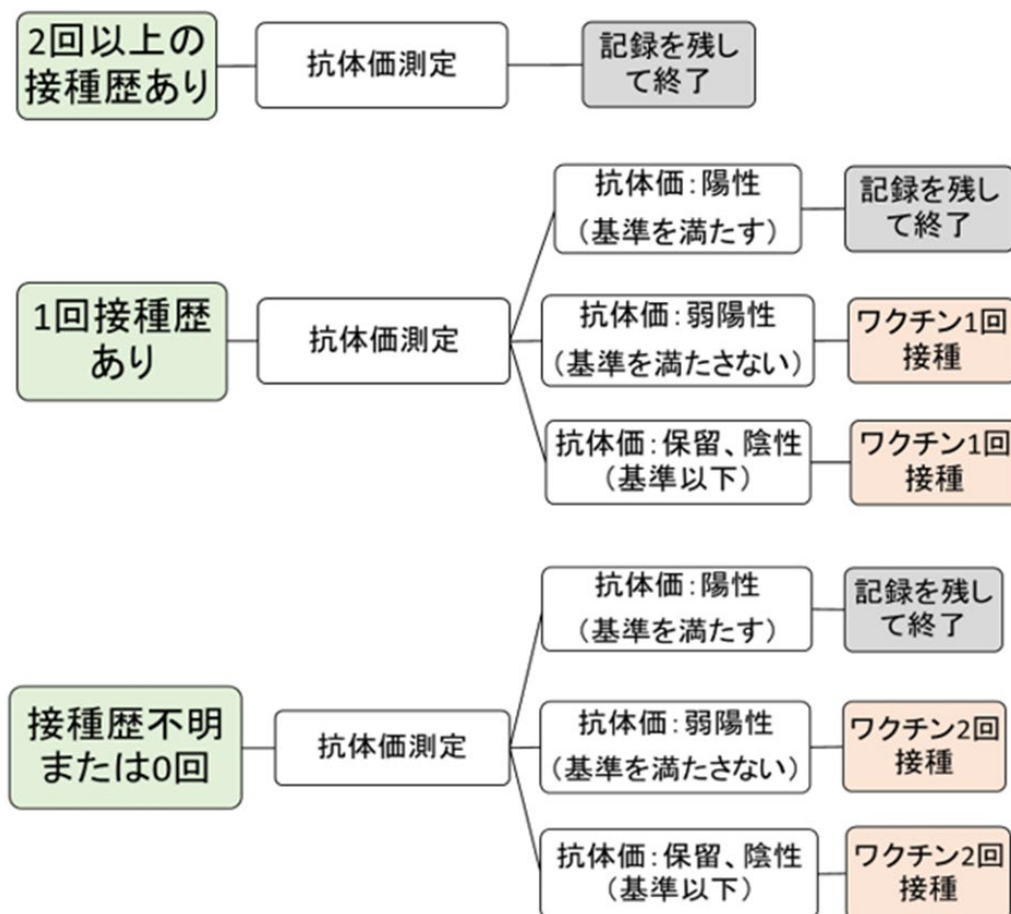
対象者：新規・中途採用職員において、各ワクチン1歳以上で2回接種が終了していない、または接種回数不明の場合など下記フローに準じて接種

接種時期：抗体価測定後、関連部署と協議の上決定し、通知

接種方法：感染制御部にて接種

新規・中途採用職員における麻疹・風疹・水痘・ムンプスワクチンの接種フロー

※ワクチン接種回数は、1歳以上で接種した回数



3) インフルエンザワクチン接種について

対 象 者：インフルエンザワクチン接種申し込みを行った職員

接種時期：関連部署と協議の上決定し、通知（11月～12月）

接種方法：事前にインフルエンザワクチン接種申し込みを行い、接種期間に案内された場所にて接種する。

4) 新型コロナワクチン接種について

対 象 者：希望した職員

接種時期・方法：随時案内する。

(2) ワクチンについて

ワクチン接種の可否

	妊娠	HIV 感染者	重症免疫不全
B 型肝炎	○	○	○
インフルエンザ	○	○	○
麻疹	×	○	×
ムンプス	×	○	×
風疹	×	○	×
水痘	×	×	×

1) 不活化ワクチン

① B型肝炎ワクチン（組み換え沈降B型肝炎ワクチン）

B型肝炎予防

0.5ml ずつを4週間隔で2回、更に、20～24 週を経過した後にさらに1回接種する（皮下注射または筋肉注射）

体液曝露後のB型肝炎発症予防 対象：2シリーズ未接種者

0.5ml を1回、曝露発生後7日以内に接種し、更に1ヵ月後に2回目、3～6ヵ月後に3回目の接種を行う。

(i) 接種不適当者（禁忌）

i) 明らかな発熱を呈している者

ii) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者

iii) 本剤の成分*によってアナフィラキシーを呈したことがあることが明ら

かな者

iv) 上記に掲げる者のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある者

(ii) 接種要注意者（慎重接種）

i) 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患及び発育障害等の基礎疾患を有することが明らかな者

ii) 前回の予防接種で2日以内に発熱のみられた者又は全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある者

iii) 過去に痙攣の既往のある者

iv) 過去に免疫不全の診断がなされている者

v) 妊婦または妊娠している可能性のある婦人（安全性は確立されていないが、予防接種上の有益性が危険性を上回ると判断される場合のみ接種する）

(iii) 副反応

i) 重大な副反応

- ・ 多発性硬化症
- ・ 急性散在性脳脊髄炎

ii) その他の副反応

- ・ 過敏症（発熱、発疹）
- ・ 局所症状（疼痛、そう痒感、腫脹、硬結、発赤、熱感）
- ・ 消化器症状（嘔気、下痢、食欲不振）
- ・ 頭痛
- ・ その他（倦怠感、違和感、関節痛、筋肉痛）

② インフルエンザ HA ワクチン

0.5m l を皮下注射する。

(i) 接種不适当者（禁忌）

i) 明らかな発熱を呈している者

ii) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者

iii) 本剤の成分*によってアナフィラキシーを呈したことがあることが明らかな者

iv) 上記に掲げる者のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある者

(ii) 接種要注意者（慎重接種）

i) 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患及び発育障害等の基礎疾患を有することが明らかな者

ii) 前回の予防接種で2日以内に発熱のみられた者又は全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある者

iii) 過去に痙攣の既往のある者

iv) 過去に免疫不全の診断がなされている者

- v) 本剤の成分あるいは鶏卵、鶏肉、その他の鶏アレルギー
- vi) 妊婦または妊娠している可能性のある婦人（安全性は確立されていないが、予防接種上の有益性が危険性を上回ると判断される場合のみ接種する）

(iii) 副反応

- i) 重大な副反応
 - ・ ショック、アナフィラキシー様症状
 - ・ 急性散在性脳脊髄炎（ADEM）
 - ・ ギラン・バレー症候群
 - ・ 痙攣
- ii) その他の副反応
 - ・ 過敏症（発疹、蕁麻疹、紅斑、そう痒）
 - ・ 全身症状（発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、嘔吐）
 - ・ 局所症状（疼痛、腫脹、発赤）
 - ・ 消化器症状（嘔気、下痢、食欲不振）
 - ・ 頭痛
 - ・ その他（倦怠感、違和感、関節痛、筋肉痛）

2) 生ワクチン

- 麻疹ワクチン
- 水痘ワクチン
- 風疹ワクチン
- 流行性耳下腺炎

妊娠可能な婦人においてはあらかじめ約1ヶ月間避妊した後接種すること、およびワクチン接種後2ヶ月間は妊娠しないように厳重に注意すること。

① 接種不适当者（禁忌）

- (i) 明らかな発熱を呈している者
- (ii) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者
- (iii) 本剤の成分*によってアナフィラキシーを呈したことがあることが明らかな者
- (iv) 明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する者及び免疫抑制をきたす治療を受けている者
- (v) 妊娠していることが明らかな者
- (vi) 上記に掲げる者のほか、予防接種を行うことが不适当な状態にある者

*タマゴ、硫酸カナマイシン、ラクトビオン酸エリスロマイシンなど添付文書にて成分を確認

② 接種要注意者（慎重接種）

- (i) 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患及び発育障害等の基礎疾患を有することが明らかな者
- (ii) 前回の予防接種で2日以内に発熱のみられた者又は全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある者
- (iii) 過去に痙攣の既往のある者
- (iv) 本剤過去に免疫不全の診断がなされている者
- (v) 本剤の成分に対して、アレルギーを呈する恐れのある者

③ 併用禁忌

- (i) 副腎皮質ステロイド剤、免疫抑制薬（シクロスポリン、タクロリムスなど）

④ 併用注意

- (i) 輸血及びガンマグロブリン製剤（3ヶ月以上過ぎるまで、大量療法では6ヶ月以上過ぎるまで接種を延長する）
- (ii) 接種後1ヶ月以内はツベルクリン反応が弱くなることもある。
- (iii) 他の生ワクチンの緩衝作用により本剤のウイルスが増殖せず免疫を獲得できない恐れがあるので、他の生ワクチンの接種を受けた者は、通常、4週間以上経過した後に本剤を接種する。

⑤ 副反応

- (i) 重大な副反応
 - ・ アナフィラキシー様症状
 - ・ 急性血小板減少性紫斑病（1/100 万人）
 - ・ けいれん
 - ・ 流行性耳下腺炎ワクチン：無菌性髄膜炎、精巣炎、難聴
- (ii) その他の副反応
 - ・ 過敏症
 - ・ 流行性耳下腺炎ワクチン：耳下腺腫脹
- (iii) アナフィラキシー様症状出現時の対応は次頁のフローに従って対応する

職員ワクチン接種後のアナフィラキシー対応フロー

アナフィラキシー
発生

医療事故防止のための院内マニュアル(第8版)
2.1.5 禁忌・アレルギー情報の収集、入力、確認 5) 項に準じる

重症アナフィラキシー 初期対応表

重症アナフィラキシー症状

全身性紅斑・蕁麻疹・膨疹、強い掻痒、顔全体の腫れ、咽頭痛、嘔声、犬吠様咳嗽、嚥下困難、呼吸困難、喘鳴、チアノーゼ、不整脈、低血圧、心停止、意識消失、不穏、持続する我慢できない腹痛、繰り返す嘔吐等

重症アナフィラキシーを疑ったら!!!

①

CPRコール

病棟:内線77 (ICU)
外来:内線99 (救命)

意識確認
脈拍(桡骨→頸動脈)触知
呼吸の確認
モニター装着
救急カート準備

②

アドレナリン筋肉注射

※救急カートにアドレナリン注0.1%シリンジ(1mg=1ml)を配置

成人 0.5mg (0.5ml)
小児 0.01mg/kg (Max0.3mg)

効果を見て5分毎に再投与

※エビペン持参の場合、1本(成人用0.3mg、小児0.15mg)を投与可

③

I. 患者を仰臥位にする
※嘔吐している時は側臥位にして、吸引を行う

II. 酸素投与と静脈ルート確保、必要時心肺蘇生を行う

※ 酸素はマスクで高流量(5-10L/分)投与
※ 静脈ルートより細胞外液(ソララクト、ソリュージェンF、生食)を最初の10分間に500ml投与し、状態により継続する。

出典
1.日本アレルギー学会アナフィラキシーガイドライン
2.厚生労働科学研究班による食物アレルギーの診療の手引き
3.Resuscitation Council(UK)

リスクマネジメント委員会 2017年7月作成
2020年3月改定

感染制御部

外来経過観察が必要な場合は
総合診療外来へ院内紹介で
フォローアップ

公的機関への申請について 本人へ説明

- ① 労災申請
- ② 医薬品副作用被害救済制度の使用の申請(入院ケースのみ)

医療事務
管理係へ連絡